

令和3年度学校関係者評価

中央調理製菓専門学校静岡校 製菓衛生師科

令和3年度学校関係者評価委員

■保護者

製菓衛生師科2年生 小出 奈那美 保護者

小出 大樹 様

■企業関係者

静岡県洋菓子協会 副会長

望月 通喜 様

■他校関係者

中央歯科衛生士調理製菓専門学校 調理製菓総合学科

高橋 渉 様

1. 教育理念・目標

【自己評価結果】

		平均
1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか。	A
2	教育目標は卒業時の到達が読み取れるものになっているか。	A
3	教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか。	A
4	組織での目標設定が適切にされ、実行できたか。	A
5	鈴木学園クレドは教職員に浸透し、実践されているか。	A

【現状の問題点】

全体として評価が高い。更に教育目標の達成度を具体化する施策や個人目標の確認ができるように体系化したスキームを学園全体で開発するべき。

【改善のための方策】

- ・その時のねらいや目的は何か、しっかりと可視化してどのような教育効果があるのか共有する。
- ・同じ行事でもその年により、状況により目標が変わってくるので、しっかりと共通認識を持つ。
- ・5に関しては、平均が5になって然るべきなので、しっかり共有していく。

【関係者評価】

評価が高い。学生が卒業後長い目で見て学校生活がどうだったかを振り返り始めて真の評価ができるだろう。

2. 学校運営		
【自己評価結果】		平均
5	目標を達成するための事業計画が策定されているか	A
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	A
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	A
8	就業規則などの諸規定は適切に整備されているか。	A
9	組織内の連携は適切に図られているか。	A
10	上司の指示は適切にされているか	A
11	上司は提案を受け入れてくれているか	A
12	職場内での教職員教育・指導は十分なされているか。	A
13	BSCは適切に活用されているか。	A
【現状の問題点】		
DXの活用により以前よりも情報共有やコミュニケーションが取れる様になっている。一方で、それによりかえって組織内の連携が疎かになる場合もあるので、あたためてDXの活用状況について点検する時期に来ている。また、学科間の情報共有を更に進めたい。		
【改善のための方策】		
<ul style="list-style-type: none"> ・発注に関して、手書きFAXのシステムで手間と時間が以前よりかかっているため、時間の使い方を工夫して学内で協力し合って効率的に進めていく。 ・実習内容決定が遅れて、発注や準備に影響が出ないように意識する。 		
【関係者評価】		
<p>コロナ禍で生き残る業種、閉める業種や生き残るやり方が見えてきた中でどのように今後の社会を見抜き説明、武器を持たせていくか学生にも浸透させていく必要があるだろう。</p>		

3. 教育活動		
【自己評価結果】		平均
14	授業評価の実施・評価体制はあるか	A
15	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A
16	資格試験の合格率は他校と比較して妥当か。	A
17	資格試験の不合格者の対策は適切に行われているか。	A
18	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A
19	目標に到達しない学生には対し適切なフォローがなされているか。	A
20	職員の能力開発のために研修等を実施若しくは派遣しているか	A
20	シラバスは十分に検討し作成されていたか。	A
21	シラバスの内容見直しについて教員間で検討されていたか。	A
22	教務の問題について、組織内で適切に話し合われているか	A
23	十分に余裕を持って教育行事の準備が出来ているか。	A
24	学生による学校評価を反省し、事後の教務を改善しているか。	A
【現状の問題点】		
<p>教育の質の高さ、独自性などに教員が自信を持って活動していることがわかる。今後はシラバスやコマシラバスの充実、教育成果の可視化などについて取り組んでいくことができれば、より評価の高い教育が実現できる。</p>		
【改善のための方策】		
<ul style="list-style-type: none"> ・狙いと目的をしっかりと共有させる。各行事を2年間の中での達成度という面から意識していく。 ・教員の熱量が学生に伝わるにはどのような伝え方をすればよいか、真の主体性を持たせるにはどう指導すべきか学科全体で常に考えていく。 		
【関係者評価】		
<p>学生の意欲と教員の意思統一が一致していないと学生に目標をどう到達させるのか理解が難しいのではないかと。卒業後5年経った時に自分の方向性が定まっていれば2年間の内容が評価されると言えるだろう。</p>		

4. 学修成果		
【自己評価結果】		平均
26	就職率の向上が図られているか	A
27	退学率の低減が図られているか	A
【現状の問題点】		
<p>コロナ禍により多くの教育機関が就職や学生のモチベーションの維持に困難を感じている中、質の高い就職と低い退学率に成果を上げた。スモールディスカッションの多用など新しい取り組みも積極的に取り入れている。</p>		
【改善のための方策】		
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の小さな変化にも気付くよう距離感や配置に気を配る。 ・全体への伝え方、不安要素をもつ学生への個別の伝え方など間違えのないようにしていく。 ・1年生、2年生ともに不安な学生がいる。モチベーションを維持させるために学科内でしっかり情報共有をする。 		
【関係者評価】		
<ul style="list-style-type: none"> ・評価できるもの。 ・退学する学生に対して学生と保護者の中で話し合いがしっかりと出来ているかが重要で、それらをしっかりと確認できているかが評価対象と考えてよいのではないかと。 		

5. 学生生活支援		
【自己評価結果】		平均
28	学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか。	A
28	各学校行事について、適切な事後反省を行い次回に活かしているか。	A
29	防犯・防災訓練の実施・防災計画の作成等、不法侵入・災害に対する整備は万全か。	A
30	進路活動に関する支援が整備され、機能しているか。	A
31	中途退学の理由、実状を適切に把握し、教職員で共有しているか。	A
【現状の問題点】		
学生とのコミュニケーションはよく保たれている。スクールカウンセラーの予約をWEBでできるようにするなどの工夫があるとよい。		
【改善のための方策】		
<ul style="list-style-type: none"> ・2年になり他分野へ進もうとする学生への対応も継続して行う。菓子作りは手段であり、他校で出来ない取組みを通じて人間力を高めており、どのような仕事に就いても離職しない力をつけている2年間という事を伝えていく。 ・カウンセリングに関する体制が整っているの、学生にとって効果的に活用するようにしていく。 		
【関係者評価】		
学生と教員の距離感や信頼感が双方向で高いと評価される。学生の意欲と教員の意思統一が同じ方向になるようにしていく。学生に到達目標をしっかりと示し進めていく必要があるだろう。		

6. 教育環境		
【自己評価結果】		平均
33	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A
【現状の問題点】		
今年度は大きな教育機器の導入はなかったが、既存の施設を十分に活用して独自の教育を実現してる。		
【改善のための方策】		
<ul style="list-style-type: none"> ・恵まれた設備環境にあるので、オープンキャンパスや実習で大いに活用していく。 ・正しい管理の仕方を教員も身に付けて故障が少ないようにする。 		
【関係者評価】		
一般的な現場よりも設備が整っているが故に社会に出てからのギャップがないように指導していくことが必要だろう。		

7. 学生の受け入れ募集		
【自己評価結果】		平均
34	学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法, 時期は適切か。	A
34	入学案内(パンフレット)には志願者が必要とする情報が掲載されているか。	A
35	体験入学の時期、回数、内容は適切か。	A
36	入学者選抜の時期、方針、方法は適切か。	A
【現状の問題点】		
入学願書数は昨年に届かなかったが、教職員の努力は十分に発揮されている。		
【改善のための方策】		
<ul style="list-style-type: none"> ・業界で活躍しているのが男性が多いという説明をガイダンスなどで話し、男子学生増加を目指していく。 ・卒業生の離職が減っており、分野で活躍している卒業生を紹介、説明して学生募集に努める。 		
【関係者評価】		
<ul style="list-style-type: none"> ・募集に対してMAXでとると質が落ちたり、質を良くしていくとMAXでとれなかったりするのでそれをどのように対応していくのか、学生募集の方向性が問われてくる時期になる。 		
8. 財務		
【自己評価結果】		平均
38	・中長期的に所属学科の学費納入基盤は安定しているといえるか	A
39	・学科で策定した予算・収支計画・執行は有効かつ妥当なものになっているか	A
【現状の問題点】		
管理職が予算執行状況の共有と収支バランスの把握をできるようにし、更に無駄なく教育資源として投入できるように検討したい。		
【改善のための方策】		
・行事に関わる予算執行、消耗品のコントロールなど教員全員で共有する。		
【関係者評価】		
意識が高くなっている。		

9. 法令等の遵守

【自己評価結果】		平均
40	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
40	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	A
41	個人情報保護法を遵守しているか。	A
42	各種ハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか。	A

【現状の問題点】

ハラスメントの啓蒙が進まなかった1年であった。個人情報保護と併せてより教職員教育が必要

【改善のための方策】

- ・ハラスメントに関する道徳的な時間をとり、啓蒙活動に努める。
- ・休日の連絡など個人情報の扱いにも注意を払っていく。

【関係者評価】

- ・引き続き日常からハラスメントや個人情報の扱いに対して関心を持って学生指導にも活かしてほしい。